

実験「コンピューターを使って台風の通り道を調べよう」

【準備】

パーソナル・コンピューター[インターネット・ブラウザが使用でき、インターネットに接続されたもの](1)、鉛筆(1)、色鉛筆(3色)、日本付近の白地図(10)

【実習】

1. 台風の進路を調べる年を選ぶ。
2. インターネット・ブラウザを立ち上げて、国立情報学研究所のデジタル台風のホームページにアクセスする。なおデジタル台風ホームページのURLは、
<http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typhoon/>
である。ただし将来的に変更されることもあるので注意すること。
3. トップページ「台風データベース」で「日時・シーズンで検索」を選び、さらに「2.台風シーズンで台風系列を検索」で選んだ年をクリックする。表示された台風の一覧表から、台風の名称をクリックすると、台風進路などの詳しいデータが表示される。
へアクセスする。
4. 台風のおおまかな進路を白地図に記入し、その台風の名前や日時も合わせて記しておく。
5. 台風が進路が年や月によってどのように変わったかを考察する。

【後かたづけ】

- ・ 使った鉛筆や色鉛筆をきちんとふで箱や決められた場所にかたづける。
- ・ パーソナル・コンピュータはログアウトして、ディスプレイのスイッチのみを切る。特別指示が無い限りは本体の電源は切らない。

【教師に必要な予備知識】

(理論)

○ 台風の進路

台風は北太平洋高気圧の縁を通るように北上する。そのため、北太平洋高気圧の勢力が弱まり、その縁が日本付近にかかる8月から9月には、台風が頻繁に日本上を通過することになる。日本の南の海上では平均で年30個弱の台風が発生し、平均3個が日本に上陸する。

(実験法)

○ パーソナル・コンピュータ、インターネット・ブラウザの使い方

パーソナル・コンピューター、インターネット・ブラウザとも、普段からこまめに使用して慣れておくこと。特にトラブル対策については経験がものを言う。

